

フィリピン

ネグロス島に行ってきました! Vol.1

訪問先の報告はVol.2以降で行います



去る、6月30日~7月5日にかけて行われた「2015年ネグロスツアー」に生活クラブ奈良として参加しました。

「ネグロスツアー」は関西6生協共催で毎年行われており、バンゴンバナ、マスコバド糖の産地であるフィリピンのネグロス島を訪問します。ツアーコンセプトは「お互いを知り、知らせる交流」です。現地の様子を知ることが出来る。生産者と消費者が交流出来ることも貴重なツアーです。



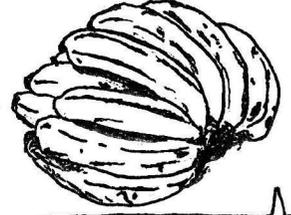
バンゴンバナ民衆交易のあゆみ

ネグロス島は「砂糖の島」と呼ばれるほどサトウキビの栽培が盛んな島でした。

1980年以降、砂糖の国際価格が大暴落し、砂糖産業が壊滅状態となります。サトウキビ農場を労働者として働いていた人々は次々と失業し、経済的打撃を受けて、深刻な飢餓状況が一気に広まりました。その結果、多くの子供の命が失われました。

ネグロスの人々への支援と、自分たちで農産物を生産する力を付けてもらう。それを公正な貿易活動で支える「民衆交易」の構想が生まれ、マスコバド糖の輸入が始まりました。

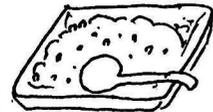
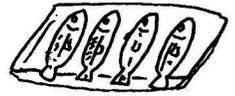
その後、日本の生協運動と連帯したバンゴンバナの民衆交易が開始されました。



生産者は私たちに安心して食べられるバナナを届けてくれます。そしてバナナの出荷を通じて生産者は暮らしの向上もめまします。バンゴンバナを通じて生産者と消費者が互いに支え合い関係が続いています。

食卓に入っては少し不慣れでしたが味付けも日本人好みでもおいしいです!
(白米(もろこしツケライス)、鳥を甘辛く焼いたもの、野菜炒め、やまはの揚げ麵、焼魚など)

食事以外に10時と15時におやつがいただけます。果物やチョコなど。フルーツもおいしい! マンゴ最高でした!



基本的には大皿で取り分けて食べます。ナイス、ファーストを保留。

農村地域でも電気は通っているようです。しかし、停電はよく起るとのこと。(計画的な)

バンゴンバナが選ばれた理由

- ① ネグロスに自生し、環境を破壊しない方法でネグロスの人々が楽に栽培できること。
- ② 地元の人々の食生活や地域経済に影響を与えないこと(バンゴンバナは地元であり消費されるバナナではないので輸入することで市場価格に影響しない)
- ③ 日本の消費者が求める、農業漬けでないバナナであること。

ネグロス島
首都マニラの飛行機で1時間ほどで到着です。季節は雨季と乾季の2つで訪問時は雨季のためほとんど雨が降りました。想像していたより暑くはなりました。日本のほうが暑いくらいです。街はお店も外国人ばかりににぎわっています。訪れたところは道路も舗装されたり、農家は家や畜舎が綺麗にあり、家や畜舎の差があまり見えずに驚きました。



クラクションが合図代わりに常にクラクションの音が鳴り響いています



住民の足はバイクのタクシーや乗り合いのワゴンです。街中を無数に走っています。驚くことに交差点などに信号はありません。歩行者も平気でどんどん渡ってきます。よく事故が起らないなあと思います。

ウラ面にバンゴンバナの登録用紙が付いています!!